

ピアホームだより

2014. 3. 10

講演：統合失調症を解明するための冒険

一糸川昌成東京都医学総合研究所研究員

2月6日、板橋区神保健福祉連絡会主催で、糸川先生を迎えての講演会がありました。

私自身は、以前、白石先生主催の交流会でお招きされた先生の講演を聞き、大変感銘を受けていましたので、職員・関係者の皆さんに宣伝をし、是非聞いて頂きたいと思っていました。

前回は、その科学的な知見を簡単に報告しましたが、今回は、先生が研究に没頭して来た深い動機とも言うべき家族への思いについて書いてみたいと思います。

先生のお母さんは統合失調症で比較的若くして亡くなられたとのこと。発症は、先生がもの心つく前で、既に家族と隔離され入退院を繰り返していたようです。先生は、祖父母に預けられて育てられ、母は死んだと聞いていたと

のことでした。この事実は医学部生になってから知るところとなり、先生の進路を精神医学へと導いたようです。

医科歯科大学の仕事をしながら週末には研究のために、毎週休みなく筑波大学まで通い続けた日々を振り返っておられました。

思いが強いんですね。何としても精神病を解明したい！

私も、娘が病気になった当初のことを思い出しました。この病気のことなら何でも知りたいと統合失調症に関わる情報があればどこへでも飛んで行きました。

自分が何故母と過ごせなかったのか？母の病気を知りたい！その執念が遺伝多型も発見し、統合失調症の遺伝的な類型を明らかにして行く端緒を切り開いて行ったのではないのでしょうか？

私の娘は、大変重症で改善どころか、むしろ悪化してきている。—と感じる今日この頃、諦めかけた気持ちに鞭が入った？様な気がします。

希望を失ってはいけない！

先生は、そんな思いも講義の中に巧みにしのばせていて、家族を励ましてくれました。

そんな援助者の心構えを説いた印象的な言葉。

・外相整いて内相自ずから熟す。

援助者は、まずは朗らかに振舞う。

・海馬を大きくしうつ気分を克服

これまで脳の神経細胞は、一度死んだら増えないと思われて来ましたが、海馬で再生することが分って来ました。海馬を大きくするには、家族・パートナーの存在、適度な運道、豊かな環境がいいそうです。

・焦点化幻想

人間は自分次第で幸福にも不幸にもなれる面があります。嬉しかったことなどを焦点化幻想に活用するほうがよい。

・幸福は伝染する

意欲的で前向きな生活、そんな友人と交流し幸せをもらおう！

・ホルミーシス仮説

微量の毒素は身体を強める。適度のストレスは健康を増します。

3月の行事

<3月8日>アドボケイト会理事会

<3月27～29日>リトルハウス引越し